

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート

「最高のクラスメイト」

こんにちは。

今月から始まった春学期、IELP(言語集中クラス)中級と大学の授業を聴講生として受講しています。まだ今学期が始まって一か月しか経っていませんが、前学期よりも充実しているように思います。その一番の理由は、最高なクラスメイト達です。今回のレポートでは、私のクラスメイト自慢を通じて、IELPの魅力をお伝えしたいと思います。

クラスメイトは、サウジアラビア人6人、中国人4人、インド人1人、韓国人1人、そして私、日本人1人の計13人。男女比は10:3です。

前学期からクラスのレベルは変わりましたが、クラスメイトはほぼ変わらなかったため、最初から顔なじみでした。そのおかげか、前学期よりもクラスの雰囲気が積極的になり発言が増えました。

クラスメイト達を簡単にご紹介したいと思います。

お祝い事が大好きなサウジアラビア人の男の子、彼は超が付くほどの前向きで、笑顔が素敵なクラスのムードメーカー。みんなのお父さんのようなしっかり者。週一回は授業中に突然”Naomi, how are you?”と聞いてくる、ナイジェリア出身サウジアラビア育ちの彼(彼はナイジェリア人なのかなと思いましたが、彼がサウジアラビア人といっているので、サウジアラビア人です)。クラスメイトにちょっかいを出すことを趣味としている韓国人。将来の夢は、自国でインターナショナルスクールを経営すること、あたたかい眼差しで見守ってくれるサウジアラビア人の主婦の方。一緒にいると笑いが絶えない、私の相棒の中国人。

クラスみんながとっても大好きです。あるクラスでは、英語での劇をすることがあるのですが、先生の趣味により(!?)ストーリー設定は恋愛。となると、必然的に男女での演じになり、、女性役は私です。そこが私の定位置になってしまいました。楽しいですが、、おかげでハニーと呼び合う仲が三人も。文法のクラスでは、先生への質問の嵐。先生への質問は、クラスメイトによって膨らまされたり、彼らが教えてくれたり。

先日来学期の話になった際、私だけ帰国することがわかり、、「Naomi がないなんて、信じられない」と言ってくれ、寂しさが募りました。アメリカへ来て、人生で初めて出会ったサウジアラビア人とこんなに仲良くなるとは思っていませんでしたし、大好きな人たちに寂しいといわれて、思わず涙。今泣いていたら学期末は大変ですね。

最初は、お互いの国のこともわからず、英語も上手く話せず、とくに母国語の発音からの訛りが抜けず、、休み時間に聞こえてくるのはそれぞれの母国語。そんなクラスが少しずつお互いを知り、英語で話すことに慣れ、友達となり、休み時間はみんなで冗談をいふぎけ合う、最高のクラスになりました。実はみんな負けず嫌いなので、これからも進化

していくのだろうなと思うとワクワクします。学期末はどのようなクラスになっているのだろう。きっと、私が帰国した後もこのクラスは進化していくでしょう。一緒に成長できないことが寂しく、悔しくも感じます。

大学の授業を受けることができなかったことは、心残りではないといったら嘘になります。しかし、IELPでしか得ることができないものがあるのだと最近、思うようになりました。

このクラスにいて思うことは、人について。人と人、個で接したときの楽しさが好きだから、人と直接関わることが好きなのだと思います。そして、たとえ相手が私とは違う環境、文化の中で育っていても、個人として友達になることは可能であり、相棒のような関係にもなれる。その結果、その人を知っていくうちに、異文化や英語に興味をもったのだと思います。きっとこの点が好きな人はたくさんいるのだと思いますが、そこに自分らしさを見つけ、表現できるようになりたいなと思います。

そして、やはり人と出会うことを、一瞬だけではない出会いをこれからの人生で経験したい。これを自分の軸に、自分がしたいこと、できることを考えていきたいなと思います。

このように考える機会を多く与えてくれることが、私が思う IELP の魅力です。



休み時間中のクラスメイト
と私、雪を満喫しました。